

第 3 回 S S H 国際交流講演会

令和 8 年 8 月 26 日(水)に、物理講義室で第 3 回 S S H 国際交流講演会が実施され、1 年生 8 名、2 年生 46 名、3 年生 4 名が参加しました。今年度 3 回目の講演会の講師は、本校 70 回生でチェコ共和国のカレル大学第一医学部を卒業された藪あゆいさんと、本校 74 回生で台湾の元智大学を卒業された菅原そよかさんで、タイトルはそれぞれ「BEYOND THE BORDERS」、「Study in Taiwan」でした。

藪あゆいさん（本校 70 回生、バスケットボール部）

カレル大学(*Charles University*)第一医学部卒

藪さんは高 3 の夏からの 1 年間のアメリカ留学をきっかけに英語で医学を学びたいと考え、カレル大学第一医学部へ進学されたそうです。本講演では、一高時代や高校留学について、カレル大学の入試について、チェコでの生活や大学について、最後に、留学全般について、そしてそれに対するアドバイスをお話いただきました。



↑ 講演会の様子

参加者の感想

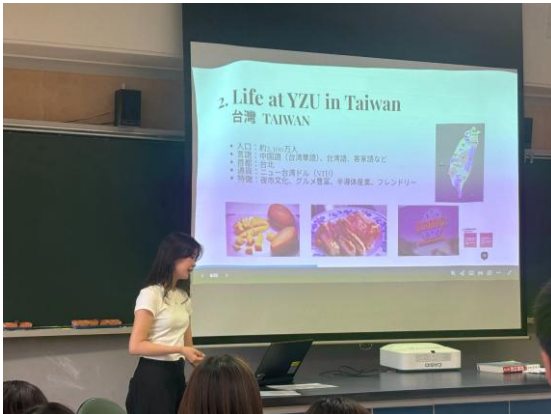
・医療関係の仕事に興味があったので、仕事を海外でしようと思う良い機会になった。

・高校生の今、大切なことは、勉強、全力で何かに打ち込むこと、高校生活を楽しむこと、言語を学ぶことであると教えていただいたので、将来に向けてこれらを実践したい。そして、興味のあることにトライして、今のうちから将来の視野を広げていきたい。

・私も将来海外留学や、ワーキングホリデーに行ってみたいと考えていたので、経験談を聞くことができて良かった。まだ明確な将来の目標はないのですが、様々な視点を持って目標を見つけ、一歩踏み出せるように頑張りたい。

菅原さやかさん（本校 74 回生、バドミントン部）
元智大学 (Yuan Ze University) 情報管理学科卒

菅原先輩は一高卒業後、台湾の情報管理学科に進学しました。以前から海外で働きたいという夢を持っており、そのためには現地の人々よりも優れていなければならないこと、また英語は多くの人が話せるため、アドバンテージとして中国語も話せるようになりたいと思ったことから留学を決めたそうです。また、台湾は学費が安く、大学から奨学金が貰えることも理由の 1 つだったそうです。



質疑応答

Q.いつ台湾への進学を決めましたか？

A.中学の終わり頃です。

Q.中国語は入学までに習得できましたか？

A.最初は大変でしたが、なれました。

Q.大学入試は日本語で受験しましたか？

A.学力のテストは無く、作文などの提出のみでした。

↑ 講演会の様子

参加者の感想

・はじめから、「こうしないといけない」と決める必要は無いことを学んだので、私も興味のある分野に積極的に挑戦してみようと思った。

・台湾への進学を決めた理由が、親近感が湧く物で、留学などをより現実的に捉えることができた。将来の進む道を少しずつ探し、自分のやりたいことに向かって、挑戦していきたい。

・私は留学をしたいという思いが強くあったため、留学の中にも、やりたいことの種類によって、方針が異なることが分かり、広い視野を持つことができた。留学をサポートする予備校のような物が他にどのような種類の物があるのか興味を持った。

【編集後記】

台湾やチェコでの様々な留学の実体験を聞くことができ、大変興味深い講演でした。お二人の講演を聞いて留学への興味が高まり、世界への視野が広がりました。活動を振り返ることでそのときには気付かなかった学びや自分自身の変化にも気付くことができました。この講演によって得た学びを今後の学習や国際交流の活動につなげ、様々な考え方や文化に触れながら、自分の視野をさらに広めていきたいと思いました。